

2023

10

October
No. 368

広報

アイスマ

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



9月13日、三町村小学校体育交流陸上

記録会が開催されました。三島小の5・6

年生が自己ベストを目指し、精一杯競技に

挑みました。

※詳しくは広報みしま3ページに記載

三町村小学校体育交流会陸上記録会

自己ベストを目指して！

祝敬老

4年ぶりに開催となった敬老会では町内の75歳以上の上約120名が参加され、会場のいたるところで久々の再会を喜びながら笑顔で話す方々の姿が見られました。また、演芸会が行われ、西方スポーツ民踊クラブ、藤間会、風の会の皆さんによる舞踊や歌唱、仙台市在住（滝原出身）の川原田真紀子さんによる安来節が披露され、大いに盛り上がりました。また、満99歳の白寿を迎えられた赤城チヨミ様、満88歳の米寿を迎えた26名の方々には町から表彰とお祝いの品が贈られました。

白寿を迎えられた方

（大正12・13年生まれの99歳）

赤城 チヨミ様（宮下）

米寿を迎えられた皆さま

（昭和9・10年生まれの88歳）

※順不同、敬称略

地区	氏名
宮下	佐久間 スミ子
宮下	栗城 芳雄
宮下	坂内 清二

地区	氏名
宮下	長谷川 三千代
桑原	長谷川 正一
桑原	長谷川 美恵子
大登	角田 ハル子
川井	森田 久美子
桜原	海老名 弘
桜原	片山 聡子
桜原	片山 富美子
滝谷	五十嵐 榮
大谷	五十嵐 アヤ子
大谷	五十嵐 菊雄
大谷	武井 トシ子
間方	西郷 爲夫
間方	菅家 ハルイ
西方	田中 シウ
西方	五十嵐 正一
大石田	五十嵐 敏
名入	五十嵐 マサエ
名入	佐藤 三恵
名入	五十嵐 榮子
高清水	菅家 タツイ
滝原	板橋 光雄
早戸	佐久間 房



川原田真紀子さん（滝原出身）



藤間会



風の会



西方スポーツ民踊クラブ

しあわせ

金婚夫婦

敬老会では、結婚50年を迎えるご夫婦の「しあわせ金婚夫婦」の表彰式が行われました。

福島民報社による「しあわせ金婚夫婦表彰」では、結婚50年を迎えた5組のご夫婦が福島民報社から表彰され、代表として秦育雄さん、ひろみさんご夫婦（大石田）に表彰状と記念品が手渡されました。



代表で表彰を受ける秦育雄・ひろみご夫婦

地区	金婚夫婦 氏名	地区	金婚夫婦 氏名
荒屋敷	渡部 清市・由紀子 ご夫婦	高清水	矢澤 昇・民子 ご夫婦
大石田	秦 育雄・ひろみ ご夫婦	大石田	中 兵一郎・いみ子 ご夫婦
西方	坂内 洋二・敏子 ご夫婦		

両沼西部三町村小学校 体育交流会陸上記録会

各種目1位になった三島小学校児童一覧

種目	氏名
5年男子 100 m	布川 琉生 さん
5年女子 100 m	五十嵐 ゆづき さん
6年男子 100 m	二瓶 たける さん
5年男子 1,000 m	布川 琉生 さん
6年男子ボール投げ	鈴木 瑠希 さん
6年女子ボール投げ	熊谷 祐衣 さん
6年男子走り幅跳び	二瓶 たける さん

9月13日に金山小学校グラウンドにおいて両沼西部三町村小学校体育交流会陸上記録会が開催されました。競技は100m走、持久走、ボール投げ、走り幅跳び、4×100mリレーが行われました。

7月27日に西部三町村小学校水泳記録会で熱戦を繰り広げて以来、再び昭和、金山、横田の各小学校の児童の皆さんと互いに競い合い、自己ベスト更新を目指して全力で競技に挑みました。三島小学校の児童が大活躍し混合4×100mリレーを含む8種目で1位を獲得しました。



スターウォッチングツアー2023～ミサカノヨゾラ～

9月16日に美坂高原において「スターウォッチングツアー2023」が開催され、「ミサカノヨゾラ」が開催され、約300人の方が来場されました。今回もマルシェが開かれ、町内外の美味しい食べ物や加工品などが出店されました。広場では、株式会社モンベルのキャンプグッズをお借りしてキャンプ体験も行われました。さらに国立天文台監修のビクセン製の望遠鏡づくりワークショップや生活工芸館による木工体験、唐人凧製作体験などが行われ、にぎわいを見せました。

午後7時からは国立天文台天文情報センター上席教授の渡部潤一先生による講演会、午後8時からは天体鑑賞愛好家の清水健司（喜多方市在住）さんのご協力のもと、天体望遠鏡をステージ付近に設置し星空観望会が行われました。星空観望会では美坂高原の照明を一時的に全て消し、渡部先生から天体についての解説をしていただき、ステージではテレビ観望※も行われました。

参加された方は、真っ暗な美坂高原で普段は気が付かない星空の美しい光に感動していました。



▲ キャンプ体験の様子



▲ ワークショップで作成した望遠鏡



▲ 渡部潤一先生の講演会

※ 電視観望とは… 電視観望とは、従来の望遠鏡を用いた天体観測とは異なり、望遠鏡にカメラを取り付け/組み込み、眼ではなくカメラに映った映像を観察する観望方法。

令和5年度納税功労者地方振興局長感謝状 酒井佐一さんに贈呈されました

8月29日、酒井佐一さん（宮下）に本田伸雄会津地方振興局長より「令和5年度納税功労者地方振興局長感謝状」が贈呈されました。

酒井さんは平成23年より11年にわたり宮下第一納税貯蓄組合長として、地域及び組合員の納税意識の向上に努めるとともに、町納税貯蓄組合連合会の理事ならびに副会長として町内関係組織の育成・指導に大きく貢献してこられたことから、この度の贈呈となりました。

「地球は宇宙のどこにあるの？」 渡部潤一先生による星空教室開催

9月15日に国立天文台上席教授の渡部潤一先生による星空教室が町民センター大ホールで開催されました。三島小・中学生や町民の方を前に、「地球は宇宙のどこにあるの？」をテーマに講演されました。難しい内容も分かりやすく解説していただき、大人から子供まで興味津々で、質問タイムでは多くの小・中学生が手を挙げ質問していました。講演の後、感謝の気持ちを込めた中学生による「夏は来ぬ」の合唱披露や小学1・2年生の手作りの王冠が渡部潤一先生にプレゼントされました。

好投と粘り強い守備

第17回市町村対抗県軟式野球大会

9月17日、小野町の小野あぶくま球場にて三島町対富岡町の試合が開催されました。

1回表、三浦健太郎主将のヒットで塁に出るも、打線が繋がらず0点で迎えた2回裏、富岡町の猛打により4点を失いました。中盤では志田雅史投手の好投と粘り強い守備でダブルプレーも取るなど0点に抑えるも、6回裏富岡町の巧打により3点を失い、残念ながら敗れてしまいました。

監督の西恭平さんは「随所に練習の成果といえる良いプレーあっただけに、試合結果にはとても悔いが残る。来年に向けては練習場所や人数の確保などの課題があるが、できる限り三島町チームの単独出場を目指したい。選手への応援、チームへの支援に感謝しています。」と話されました。



▲左より矢澤町長、酒井さん、本田局長



▲手を挙げる三島小の児童



▲王冠をプレゼントされる渡部潤一先生



▲三島町チームの皆さん



▲志田雅史投手

三島町「テレサ・テン」ファン交流会 第1回 歌唱大会

8月26日に交流センター山びこにおいて「テレサ・テン」ファン交流会第1回歌唱大会が開催されました。

ファンの皆さんによる歌唱が行われ、「ふるさとはどこですか」「時の流れに身をまかせ」など、テレサさんの代表曲が歌われました。

また、テレサ・テンの日本の父と呼ばれる舟木稔氏からは、テレサさんが来日に至るエピソードなども伺うことができ参加者も熱心に聞き入っていました。

「自己ベストを目指して」

三島小学校水泳記録会

8月30日に三島小プールで水泳記録会が開催され、日々の練習の成果を存分に発揮することができました。下級生は練習で足が途中でついていた児童も本番では最後まで泳ぎ切り、上級生は自己ベストを目指して全力で泳ぎました。

自分が競技に出場していない時は出場している仲間を全力で応援し、励ましていました。このようなすばらしい雰囲気の中で、自己ベストを更新した児童が多く見られました。

『あいづ応急手当ステーション』交付

佐久間建設工業株式会社

社会福祉法人三島町社会福祉協議会

8月28日に「佐久間建設工業株式会社」並びに、「社会福祉法人三島町社会福祉協議会」の2事業所において、『あいづ応急手当ステーション』の交付が行われました。

『あいづ応急手当ステーション』とは、平成17年8月から開始された会津若松消防本部応急手当推進事業の認定要綱が令和4年度に一部改正され『応急手当認定事業所』から名称が変更されたものです。

傷病者が発生した場合、普通救命講習を受講し修了証の交付を受けた社員や従業員が応急手当を行うことができ、さらにはAEDの適切な管理がなされており、無償で提供（貸し出し）や操作ができる事業所において、会津若松消防本部が認定する事業です。



▲ 矢澤町長、舟木稔さんとファンの皆さん



▲ 全力で頑張った三島小学校の児童



▲ 左より佐久間源一郎会長、佐藤岩男社長、細堀高正会津坂下消防署長、青柳誠三島出張所所長



▲ 左より秦和幸事務局長、小松豊会長、細堀高正会津坂下消防署長、青柳誠三島出張所所長

令和4年度

決算

財政健全化

自治体の財政破たんを未然に防ぎ、財政状況の悪化した自治体に対して早期に健全化を促すために、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき「健全化判断比率」と「資金不足比率」の公表が義務付けられています。一般財源の規模に対する公債費（借金の返済金）の割合を示す「実質公債費比率」の3カ年平均値が8.8%となり、今後上昇していきまます。これは町の財政に余裕がなくなっていくことを意味しています。地方債（借金）の令和4年度末残高は、全会計で45億3,297万円（4.3%減）となりました。地方債は建設事業費の財源とするために借入するものですので、地方債をこれ以上増やさないうために建設事業等の抑制が必要となっています。

健全化判断比率

判断指標	令和4年度	令和3年度	早期健全化基準
実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	15.0%
連結実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	20.0%
実質公債費比率	8.8%	6.2%	25.0%
将来負担比率	—（※）	—（※）	350.0%

（※）将来負担比率はマイナスとなり算定されないため「—」となります。

資金不足比率

対象となる事業	令和4年度	令和3年度	経営健全化基準
簡易水道事業	不足なし	不足なし	20.0%
農業集落排水事業	不足なし	不足なし	
戸別合併処理浄化槽事業	不足なし	不足なし	

町の一般会計と7つの特別会計の令和4年度決算が、町議会9月定例会で認定されました。一般会計で前年度と比較すると、歳入総額は2.3%増、歳出総額は4.7%増となりました。地方交付税が歳入の50・6%を占め、国の財政措置に大きく依存しています。歳出では地方債の償還（借金返済）である公債費が31%増で歳出全体の13・6%となり、近年の起債を伴った建設事業の増加を反映しています。

基金

「町の貯金」といえる基金には、財政調整基金や減債基金、各種特定目的基金と、各種貸付基金である定額運用基金があります。令和4年度においては、減債基金及び特定目的基金の取崩・積立により財政確保を用いました。令和5年度以降は、残高が8億円を超えている財政調整基金の取崩による財源確保が見込まれます。基金を取り崩さなければ歳入不足となることが想定されており、歳出の節減がますます必要となっています。

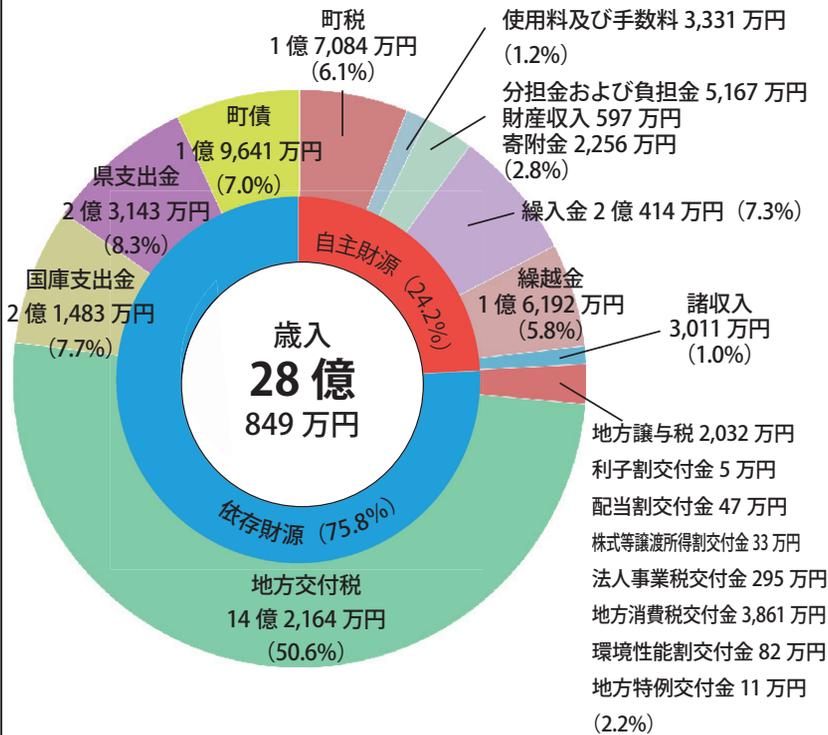
基金種別	令和4年度末残高	増減
一般会計繰入が可能な基金の合計	18億5,455万円	3,009万円
財政調整基金	8億1,581万円	2万円
減債基金	4億6,499円	2,001万円
その他の各種特定目的基金	5億7,375万円	1,006万円
国民健康保険基金	2,235万円	—
介護給付費準備基金	3,935万円	545万円
定額運用基金	1億6,410万円	—
合計	20億8,035万円	3,554万円

令和4年度会計別決算額

会計種別	歳出決算額	実質収支	
一般会計	27億550万円	+1億227万円	
特別会計	国民健康保険	1億8,705万円	+766万円
	簡易水道	1億5,751万円	+64万円
	路線バス	2,931万円	+203万円
	農業集落排水	3,645万円	+246万円
	介護保険	4億3,220万円	+3,578万円
	戸別合併処理浄化槽	4,543万円	+90万円
	後期高齢者医療	3,511万円	+65万円
	合計	36億2,856万円	—

一般会計
歳入

地方交付税 2.7%増、県支出金 52.9%増、町債 27.7%減

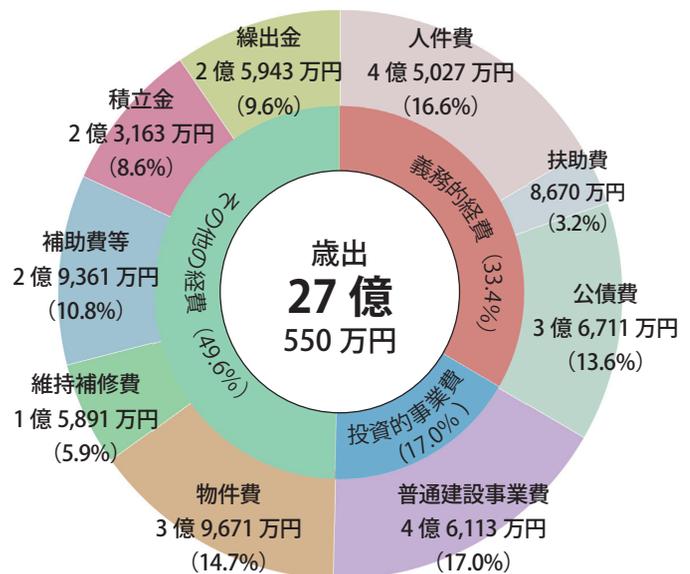


歳入の半分を占める地方交付税は2.7%増となりましたが、主な要因は公債費が増えているため、その措置額も増えていることです。また同じく公債費の財源とするため、減債基金1億1000万円を取り崩し、繰入金は10.0%増となりました。一方、新型コロナウイルス対策関係補助金の減などにより国庫支出金9.8%減、「歳時記の郷・奥会津」活性化事業、ふくしま森林再生事業などの補助金の増により県支出金52.9%増となりました。分担金及び負担金は、ごみ処理最終処分場恒久対策に伴う近隣3町村からの負担金5,164万円により大幅に増加しました。町債は過疎対策事業債や臨時財政対策債などの減により27.7%減となりました。

一般会計
歳出

公債費 31.0%増、普通建設事業費 15.1%増、扶助費 21.5%減

普通建設事業費については、道の駅駐車場拡張、除雪ロータリー車更新などにより補助事業分が251.5%増、教員宿舍改修、道の駅空調設備更新の完了などにより単独事業分が43.4%減となり、合計では15.1%増となりました。一方、住民税非課税世帯臨時給付金、子育て世帯への臨時特別給付金の歳出減などにより、扶助費が21.5%減となりました。また人件費1.8%減、物件費1.0%減、維持補修費15.7%減、補助費等5.9%増となったほか、特別会計への繰出金は10.4%増となり財政負担が増えています。公債費は31.0%の大幅な増となり、さらに令和5年度以降は4億円以上で推移し、財政を圧迫します。今後さらに経費節減に努め、歳出全体を抑えることが必要となっています。



三島中学校職場体験レポート

三島中二年生が町内各事業所の仕事を体験

9月12日、13日の二日間、三島中二年生が町内各事業所でそれぞれの仕事内容を体験してきました。今回は、それぞれの職場体験の様子を取材してきたので、ご紹介します。

三島中2年 栗城花穂さん(中平)
 体験先：早戸温泉つるの湯(湯治棟)
 体験内容：部屋の掃除、洗濯もの干し、受付 など

花穂さんの感想
 二日間だけであ
 れば少し疲れてい
 ても楽しくできま
 すが、これが毎日
 だとても大変だ
 と思いました。



三島中2年 齋藤翔子さん(宮下)
 体験先：三島小学校
 体験内容：丸付け、授業中の個別指導 など

翔子さんの感想
 先生の立場に
 立つてみると、全
 体的に回らなけれ
 ばならないので、
 大変だと思いま
 した。



三島中2年 鈴木康生さん(宮下)
 体験先：生活工芸館
 体験内容：額作り、スプーン作り など

康生さんの感想
 かななは力が必
 要で、すぐちぎれ
 てしまい、繋げる
 ことが難しかったです。



三島中2年 二瓶晴さん(間方)
 体験先：三島保育所
 体験内容：きりん組、りす組のお世話 など

晴さんの感想
 最初はたくさ
 んの子ども達が集
 まってきてびっく
 りしたが、みんな
 と楽しく遊べてうれ
 しかったです。



三島中2年 秦聖之助さん(宮下)
 体験先：三島町役場(みしまテレビ)
 体験内容：動画撮影、編集、ナレーション など

聖之助さんの感想
 自分が最高と思え
 る写真を撮り続け
 り、色々な角度から
 撮るので難しいと思
 いました。



三島中2年 目黒はなさん(滝谷)
 体験先：三島保育所
 体験内容：きりん組、りす組のお世話 など

はなさんの感想
 最初は緊張して
 いましたが仲良
 くなって、子ども達
 から話しかけてく
 れたことがうれし
 かったです。



私が取材・記事を
 作成しました！



三島中2年 大竹 薫子さん(滝谷)
 体験先：三島町役場(広報)
 体験内容：取材、記事作成

取材では様々な角度からたくさん写真を撮り、インタビュースタッフは内容が詳しく伝わるよう細かいことまで考えて質問しないといけないのでとても大変だと思いました。町民の皆さんとたくさん接し、楽しく話すことと、カメラの使い方が分からなくても場数を踏み、少しずつでもセンスを磨けばきれいに写真を取ることができる、この二つを学ぶことができました。



二百十日のおこもり（8月31日）

佐久間 絹江さん（滝原）

立春から数えて210日は9月1日となり、今では「防災の日」と周知されています。これからの季節、収穫に向け大切な時期ですが、台風等の自然災害も数多く発生しているため、それらを無事に乗り越えるため、神々をお願いする「おこもり」が前日の8月31日の夜に行われました。住民が参集し、宮司の元で厳かに拝礼、ご祈祷を捧げていただきました。昨今の事情で短い時間での「おこもり」となっていますが、その願いは、今も昔も変わらず、これからも引き継いで行かなければと願っています。また、この日は、今年最大の満月「スーパームーン」が見られ、「おこもり」が行われた神社を煌々と照らしていました。

桧原「健康を守る会」研修旅行（9月3日）

阿部 和彦さん（桧原）

桧原地区では「健康を守る会」研修旅行を宮城県仙台市の「うみの杜水族館」と「杜の市場」の見学を中心に4年ぶりに再会しました。若手から年配者・幼児やご夫婦と様々な年齢層23名の参加で集会所を出発し、「うみの杜水族館」では様々な魚や海や川の生物の生態を見ることができました。楽しみにしていたイルカショーは産休などの理由により中止となり見ることはできませんでした。昼食とお買い物は「杜の市場」で普段見ることができない海産物に接し、更に精肉、お惣菜、季節の野菜やフルーツなどショッピングやお土産選びと楽しい1日となりました。



「秋人足」で地区の村道を守る（9月3日）

本名 与四郎さん（西方）

西方地区において「秋の人足」が行われました。今夏は、全国的に猛暑による熱中症や自然災害で多くの尊い人命が失われるなど、テレビや新聞等で連日報道されていますが、西方地区では大きな被害は報告されていません。当日は、早朝から朝日が雲の間から顔を覗かせ、絶好の人足日和となりました。普段あまり通ることが少なくなった農道や林道の雑草は、暑さの影響もあり、大人の膝元以上に伸びきっていました。14隣組がそれぞれの分担された箇所に分かれて作業を開始し、どの隣組でも、草刈り機のエンジン音が各箇所でも鳴り響いていました。作業の途中に、休憩をとりながら、イノシシによる田んぼの被害が依然としてあること、きのこも暑さのためか、まだ自生していない話やぎっくり腰はいくつかの要因が兆候として現れて重症化するので、ラジオ体操や四股を踏む運動が効果的である話など多種多様な情報交換を行う場面が多く見られました。秋の人足によって、地域の環境美化だけでなく、心の交流を深めることができましたようです。



「刈り払い 汗のしずくが ビール待つ」「人足で 情報交換 地域知る」

歩く県道美女峠の草刈り行われる（9月3日・4日）

菅家 寿一さん（間方）

間方から昭和村に通じる美女峠の草刈りが行われました。この作業は、道の管理者である県から町への委託事業で、地区で行っており、高姫清水までの約5kmを13名が参加して行われました。慣れた様子で刈払い機を操作し、道を覆っていた雑草が、みるみる刈り取られていきました。県では、現時点での自動車道の整備は困難なことから、「歩く県道」として、草刈りや道普請を行い、歴史と伝説のある美女峠の活用を推進しています。江戸時代に巡見使に同行し美女峠を越えた古松軒は、ここの楓は、竜田（奈良）や高雄（京都）よりも素晴らしいと書いています。間方側の峠道は、緩やかな勾配で道幅が広いことから、並んでおしゃべりしながら歩けることが魅力です。11月5日㊤に、紅葉の楓の中、高姫清水往復のトレッキングを行います。また、3月3日㊤には、かんじきトレッキングを行います。皆さん是非お出で下さい。



東北芸術工科大学と協働で早戸温泉遊歩道整備を実施（9月7日～10日） 橋本 光五郎さん（早戸）

東北芸術工科大学、佐久間建設工業株式会社、早戸地区が協働して2010年から継続的に行なっている早戸温泉遊歩道整備活動が、4年ぶりに3泊4日の合宿形式で9月7日から10日までの期間で実施されました。コロナ禍の中、リモート会議や日帰りでの活動、町内宿泊施設への分宿など、制約がある中でも活動を継続してきましたが、コロナ禍前の活動とほぼ同じレベルで活動できるようになったことは各関係者にとって喜びでした。この遊歩道整備活動は、大学・学生にとっては「近自然工法」を学ぶ「早戸地区環境整備実習」の場であり、実習を経験した卒業生も年を重ねるごとに多くなってきています。今年も講師として参加して下さった2名の卒業生以外に、4名の卒業生が参加して下さいました。地区としては、この活動を通じて交流人口が増えていくことも期待したいと思っています。また、この活動は2018年から「早戸地区景観・環境整備事業」として「三島町地区支援事業」の補助金も受けており、事業継続の大きな力になっています。そのおかげもあり、今年は展望デッキと拠点デッキ（どちらも仮称）の作成という大きな事業を行うことができました。昨年度はルートサインを設置し、訪れやすくすると共に「早戸温泉遊歩道MAP」を作成、つるの湯等に置かせてもらっています。是非、三島町の方々もMAPを片手に遊歩道散策を楽しんでみてください。


五穀豊穡願い子ども神輿と豊年踊り（9月9日）

本名 与四郎さん（西方）

例年行われていた西方地区の「子ども神輿」が、早朝から天候に恵まれ、4年ぶりに予定通り行うことができました。地区の小学生が一人もいないため、中学生の二瓶伸悟君と高校生の飯塚楽人君、子ども御輿に携わってこられたOBの保護者の皆さんが2週間前からふるさとセンターに集合し、夜な夜な神輿につける花飾りを色とりどりに作ったり、豊年踊りの笛や太鼓などの練習をし、当日を迎えました。子ども神輿には、お祭りがあると聞いて集まった地区の小さなお孫さん達も参加し、旧児童館近くの郷倉から加登屋さんまでの直線の道のりを「ワッショイ、ワッショイ」とお父さんやお母さんと一緒に大きなかけ声に合わせて練り歩きました。神輿の途中では、スポーツ民謡クラブが今まで練習してきた踊りの成果を披露し、沿道に集まった多くの観客から拍手喝采を受けました。夜は、「豊年踊り」も開催され、今年も趣向を凝らした団体の仮装や個人による仮装が多く出場し、会場を大いに盛り上げました。子ども神輿と豊年踊りで地区民に元気と笑顔と喜びを与えた初秋の一日となりました。

「子ども御輿 気持ちは若く 笛を吹く」「仮装して 豊年踊りに 輪ができる」


三島神社御祭礼4年ぶりに開かれる（9月9日）

小島 純さん（宮下）

宮下地区の三島神社御祭礼が秋晴れの中、4年ぶりに実施されました。当日は、台風の影響で悪天候が心配されましたが、朝から快晴となり、絶好のお祭り日和となりました。午前10時から三島神社において、例大祭が厳かに執り行われ、その後、御輿渡御が神社を出発し、山車を先頭に町内を巡行しました。「ワッショイ！ワッショイ！」と大きな声が町内各所に響き渡りました。夕方からは、山車で太鼓や笛を鳴らしながら町内を巡行しながら、祭りをアピールし、夜には、活性化センター広場において、賞品付き仮装豊年踊りが行われました。4年ぶりに行われた例大祭は、朝から夜まで住民が久しぶりにお祭りを堪能した1日となりました。





駒形神社例大祭とグランドゴルフ大会（9月10日）

佐久間 絹江さん（滝原）

祭りに先立ち、朝7時からお宮掃除が行われました。境内や苔むした石段も掃き清め、参拝後に神前で住民同士の親睦を深めました。

終了後は、神社前広場で、老若男女合せて16名参加し、グランドゴルフ大会が行われました。コロナ拡大防止のため、ここ数年開催されなかった地区行事のひとつだったので、大いに盛り上がりました。3チームに分かれゲームを行い、合間に各自自由に水分補給を行い、焼き鳥や焼きそばなど作りたてが振る舞われ、心もお腹も満ちたひと時となりました。滝原地区のグランドゴルフクラブは、他地区からの参加者を含め、週2回の練習が行われ、活動しています。日頃の練習の成果が発揮され、ホールインワンが連発する大会となりました。

また、滝原地区の「花いっぱい活動」のコスモスが咲き始めました。地区内を走行する際は、スピードを落として、どうぞご覧ください。



秋の春日神社例大祭と「おこもり」（9月14日）

阿部 和彦さん（松原）

松原地区の例大祭が春日神社本殿において神社総代、地区役員、氏子の計8名の参加で実施されました。早朝から神社役員により参道周辺の草刈りや本殿の清掃を行い、祭の旗が準備されました。午前10時には、青木則勝宮司による祭典が厳粛に執り行われ、鈴木芳伸区長が玉串奉奠後に地区の五穀豊穡と繁栄を祈願しました。夜には境内で4年ぶりに「おこもり」を実施し、参加者は3名でしたが、遅くまで農作物の出来具合や若い頃の昔話にはなが咲きました。



福島運輸支局からのお知らせ

「自賠責保険・自賠責共済」の案内

交通事故による死傷者数は年々減少傾向にあるものの、令和4年の事故発生件数は約30万件、死傷者数は約36万人と、国民の誰もが交通事故の被害者にも加害者にもなり得る極めて深刻な状況となっています。

交通事故は車社会の負の部分であり、被害者にとっても加害者にとって悲惨な結果をもたらすものです。

自賠責保険・共済は、すべての車・バイク等1台ごとに加入が義務づけられており、加害者の賠償責任を担保することで、被害者の基本的な賠償を保証する制度であり、被害者の救済を目的としています。

一人ひとりが、より一層自賠責制度の役割や重要性、保険金・共済金の支払いの仕組みなどを十分に理解・認識することがとても大切です。

☎ 福島運輸支局 ☎ 024-(546)-0345

福島県労働局からのお知らせ

福島県最低賃金が 令和5年10月1日から変わります

時間額 900円

福島県最低賃金は、常用、臨時、パートタイマー、アルバイト等の名称にかかわらず福島県内の全ての労働者に適用され、使用者は、その金額以上を支払わなければなりません。

最低賃金には、次の賃金は算入されません。

※精皆勤、通勤、家族手当

※時間外、休日の割増賃金及び深夜手当

※臨時に支払われる賃金、1か月を超える期間ごとに支払われる賃金

詳しくは、福島労働局労働基準部賃金室または各労働基準監督署へお問い合わせください。

☎ 福島労働局労働基準部賃金室 ☎ 024-(536)-4604

☎ 福島労働局雇用環境均等室 ☎ 024-(536)-2777



三島町ふるさと納税のご案内

『三島町を応援したい』そんなあなたの想いを「寄附金」という形で応援していただき、まちづくりに大切に活用させていただきます。

ふるさと納税とは

ふるさと納税とは、自分の生まれた故郷や応援したい自治体等に寄附（ふるさと納税）を行った場合に、寄附額のうち 2,000 円を超える部分について、所得税と住民税から原則として全額が控除される制度です（一定の上限あり）。三島町では、ご寄附いただいた皆さまに返礼品として寄附額に合わせた三島町の特産品をお届けしています。

寄附金控除を受けるためには

控除を受けるためには、原則として、ふるさと納税を行った翌年に確定申告を行う必要があります。ただし、確定申告の不要な給与所得者等は、ふるさと納税先の自治体数が 5 団体以内である場合に限り、ふるさと納税を行った各自治体に申請することで確定申告が不要になる「ふるさと納税ワンストップ特例制度」を利用できます。

～ 寄付の方法 ～

①ポータルサイトによる申込み (キャッシュレス決済可能)

ポータルサイトからの申込みも可能です。下記 URL よりお申込み可能です。



URL : <https://www.satofull.jp/>



②申出書による申込み (キャッシュレス決済不可)

銀行振込による入金、現金書留、役場窓口での入金をご希望の方は、「寄附申込書」をご記入いただき、郵送またはメールでお申込みください。

※様式は町 HP からダウンロード、または役場窓口で配布します。

URL : <https://www.town.mishima.fukushima.jp/site/furusato>



ふるさと運動に賛同してくださる【特別町民】大募集!!

ふるさと運動とは…

都会に住む方々に三島町の特別町民となっただき、理想のふるさとづくりを共に推進していこうという運動です。

美しい自然を保存し、人間性豊かな【ふるさと】をつくることを目的としており、この目的に賛同する方に「特別町民」としてご加入いただいております。現在は 190 名の方にご登録いただいております。毎月の広報誌など様々な特典もございます。ぜひご登録ください。

三島町 特別町民 検索

年会費…町内出身者 1 世帯あたり 5 千円 / 町外出身者 1 世帯あたり 1 万円

特典…町内施設を町民料金で利用可能、年末にふるさと小包をお届け 等

問 地域政策課 ☎ (48) 5533



新

地域おこし協力隊

鳥獣対策専門員

鈴木 亮



今年の9月1日に鳥獣対策の地域おこし協力隊として着任した鈴木亮と申します。

私は今年3月まで、福島県警察の警察官として24年間働いていたのですが、長年、昼夜の逆転した生活を続けたせいか体調を崩しがちになっていました。このままでは本当に心身を病んでしまうと思った私は、無理に警察官を続けて病気がちな人生を送るより、かねてから憧れていた猟師として生きてみたいと考えるようになったのです。

このことを、当時三島駐在所に勤務していた森建介さん（森さんは同期）に相談したところ、「三島町は良い猟師の先輩もいるし、親切な人も多いから良いんじゃないか。」と紹介してもらいました。勤務初日からクマ罾を仕掛け、その3日後にはクマが罾にかかるという、好調？なスタートを切りましたが、それだけ今年是人里に下りてくるクマが多く、深刻な状況にあるのだと思いました。

また、町の方から「鹿のせいでソバ畑がダメになった。」「イノシシのせいで田んぼが壊滅した。」といった話を聞き、獣害への対策は私が思っていた以上に重要な仕事なのだ、認識を新たにしているところです。

高校卒業から警察一筋で、資格もなければ誇れる特技もありませんが、こんな自分を雇ってくれた三島町や町民の皆さんに恩返しできるよう頑張つてまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻をお願いいたします。

趣味 料理・旅行

- 「山の神感謝祭」を開催 -

～三島町生活工芸運動友の会～

奥会津編み組細工が伝統工芸品に認定された日（9月10日）にちなんで、三島町生活工芸運動友の会では「山の神感謝祭」を開催しています。

材料をいただいている「山」をはじめとした自然の神々様に「毎年材料を頂ける感謝」、「材料採取での無事への感謝」、「伝統文化を残せることへの感謝」など、編み組品に関わる様々な感謝の意を込めて実施しました。



工人の館で開催された山の神感謝祭の様子

- ヒロロ細工2作目 はじまる -

～生活工芸アカデミーの様子～



縄編みとヒロロのポシェットづくり

生活工芸アカデミーでは、これまでヒロロの手提げやクルミのバッグ、山ブドウのバッグや財布作りなどの講座を実施してきました。

9月現在は、ヒロロの材料採取を経て、ヒロロ細工2作目のポシェットに入ったところです。編み始めるまでには、縄が30m必要ということで、受講生の皆さんは期日までに頑張つて準備していました。

☎三島町生活工芸館 ☎ (48) 5502

工芸館だより ②9 くものづくりの伝承

生活工芸アカデミーの様子





今年は早くも流行の兆し！ インフルエンザ！

【会津管内のインフルエンザ流行状況】

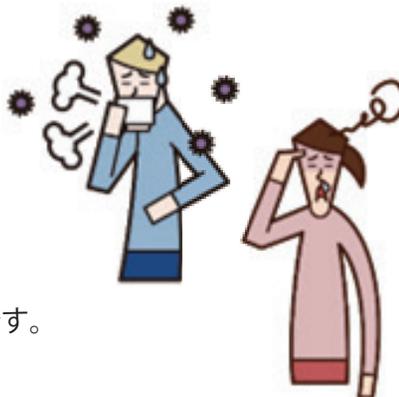
※会津地域感染症発生動向調査週報

疾患名	8月14日～20日	8月21日～27日	8月28日～9月3日	9月4日～10日
インフルエンザ	5	6	16	43
新型コロナウイルス感染症	367	356	295	283

今年は会津でも8月中旬からインフルエンザ感染の報告がありました。流行時期の早まりへの対策や、コロナとの同時感染への注意が必要な状況です。

【予防接種の効果】

インフルエンザワクチンは、「接種したらほぼ発症しない」という高い予防効果があるわけではありません。発症することを防ぐ効果は「40～50%程度」とされています。最も大きな効果は重症化（脳炎（脳症）や心筋炎、肺炎など）を予防することです。「命に関わる重篤な状態」を防ぐのに一定の効果があるということです。



【子どもと大人の接種回数の違い】

3歳から12歳は大人と同じ注射を2回打ちます。インフルエンザは、13歳以上になると一定の免疫が体の中にあるので、1回の接種で効果を保てます。乳幼児や小学生は1回の接種では十分な免疫を得られないので、2回の接種が必要とされています。予防接種の時期は医療機関の混雑が予想されますので、接種希望の方はお早めにご予約ください。

【三島町のインフルエンザ予防接種助成について】

今年度は10月1日から助成を開始します！詳しくは10月6日㊟発行のお知らせ版をご覧ください。

図書のご案内

町民センターゆめぽけっと

●利用時間

①～⑤ 午前9時～午後9時
⑥～⑧ 午前9時～午後5時

●お休み

年末年始

☎ 公民館 ☎ (48) 5599

●今月のおすすめ



私たちの世代は

著：瀬尾まいこ

家で過ごすことが最善だとされていたあの期間。多くの人から当たり前にあるはずのものを奪っていったであろう時代。それでも、あの日々が連れてきてくれたもの、与えてくれたものが確かにあった――。

●図書の紹介



ハンチバック

著：市川沙央



卒業生には
向かない真実

著：ホリー・
ジャクソン



頭がいい人が話す
前に考えていること

著：安達裕哉

町史編さん室だより

第93回

近代文書に記された

美女峠街道の開修

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。
☎(52)2165

現三島町域には〇〇街道と呼ばれた古くからの道がいくつかあります。これまで沼田街道(第41、42回)と野沢街道(第61回、西方街道とも)の開修について触れました。今回はその二つの街道ほどに資料が遺っているわけではありませんが、美女峠街道の開修について紹介します。

昭和前期までの歴史や地誌を記した宮下小学校『郷土誌』には美女峠開修以前の状況として、

野尻村大字野尻二通スルニハ本村大字桑原ヲ經三谷村大字大谷・浅岐・間方ノ三大字ヲ過キタルガ、其当時何レノ道路モ坂路多キヲ以テ、貨物ノ運搬等ニ至リテハ、人ノ肩、馬ノ背ニ倚ルノ外ナシ。故ニ交通上多大ノ不便ヲ感シタリ。

とあり、坂路が多く、また馬車が通れるよう拡張もされていない頃の街道事情がうかがえます。この美女峠街道の開修がいつ始まりいつ終わったのか、『郷土誌』の記述には、

宮下ヲ起点トシテ大谷、浅岐、間方ヲ通ジ野尻ニ至ル街道ニシテ、二十九年度ニ五百七十三円七十三銭一厘、三十年度ニ四百八十三円二十四銭一厘、三十一年度ニ五百九十三円五十一銭四厘ノ支出ヲナシテ開鑿開通ヲ見ルニ至レリ。現昭和村トノ唯一ノ街道タリ。

とあり、明治二十九年頃から始まり三十一年度に開通したかのように読めます。しかし、宮下を起点として野尻に至る街道を「美女峠街道」とするなら、宮下大谷間の大規模な道路開鑿は明治二十八年(一八九五)に行われていたことが西川村外二ヶ村組合から福島県知事に宛てた「道路開鑿願」(明治大正期福島県庁文書)からわかります。

道路開鑿願ノ義ニ付添申

郡下西川村大字宮下ヨリ三谷村大字大谷間從來之道路屈曲迂回且険坂ニシテ其不便ナルヲ以テ今般更ニ新道開鑿之義企図致候義ニ有之候尤本道開鑿スルトキハ坂路ヲ避ケ里程短縮シ至極便利ニ有之候土地収用法ニ付テモ他日苦情等無之候条御許可相成度此段及添申候也
明治二十八年四月九日

福島県知事 日下義雄殿
福島県大沼郡長 桐原彦吉印

引用したのは大沼郡長による「道路開鑿願」の添え状で、坂路を避けて里程を短縮、また土地の収用も後日苦情等ないように新道を開鑿するので許可するように申し添えています。これには西川村細堀嘉十・廣瀬賢吾、三谷村二瓶藤八郎・五十嵐富五郎を代理人とする宮下四十七名、大谷四十四名の連名連印の委任状が添付さ

れていました。

では美女峠街道開修の終わりはいつ頃かといえば、役場から大谷区長に宛てたものとして、明治三十三年(一九〇〇)十二月二十二日付で美女峠道路出来形検査を雪解けの頃まで延期する旨の通知、翌三十四年五月十一日付で同月十九日に監督員が出来形検査に来るので対応するようにとの通知、同年八月十三日付で十五日に監督員が美女峠道路の出来形検査のため出張し浅岐に泊まる予定なので不都合なきよう取り計らうようにと依頼する文書が遺されています(大谷・二瓶常一家文書)。また『郷土誌』には「明治三十四年ヨリ美女峠街道(野尻街道修繕後ノ改称)」ともあります。このことから予算がつき大規模な開鑿が行われたのが二十九年、三十一年度、その出来形検査が行われ開通したと県に確認されたのが三十四年といえるかもしれません。

(町史編さん室)

※1 『郷土誌』からの引用文は旧字体を新字体にあらためたほか、句読点をつけ、また難読字にはルビを振っています。

※2 第92回の町史編さん室だよりに、明治大正期福島県庁分署とありますが、正しくは明治大正期福島県庁文書の誤りです。お詫びして訂正いたします。

地域循環コラム 第16回

～小水力発電について考える～

本紙5月号の本コラム(第11回)にて、昨年度に『福島県地域再エネポテンシャル調査事業(小水力)』で実施された「赤谷川(大石田・名入)」と「入山沢(浅岐)」における発電所可能性調査の結果をお伝えしましたが、その後8月30日に佐賀県吉野ヶ里町の松隈地区にある『松隈小水力発電所』を視察しましたので、今回はそちらの内容を含めて小水力発電について改めて考えていきたいと思います。

1. 『福島県地域再エネポテンシャル調査事業(小水力)』の結果について

当事業では、赤谷川が199kW、入山沢が176kWと十分に発電できる地点ではありましたが、両河川ともに発電所の建設費が約10億円に及ぶ試算となり、事業の可能性としては低い結果となりました。

そこで、当事業のように河川の発電能力を最大限に活かした発電所の建設ではなく、発電規模が小さくても建設費をできるだけ抑えて、尚且つ採算が取れるような発電所はないのかと考えているところに『松隈小水力発電所』の情報を得たため、このたび視察して参りました。

2. 『松隈小水力発電所』のここがスゴイ!!

(1) 少ない発電量で黒字化!

まず、エネルギー事業において、小さな規模ではなかなか採算が取れないことが定説としてあります。しかし、当発電所では、最大出力が30kW、年間売電総額が約840万円という小規模な発電事業であるものの黒字化を実現しています。

それには、以下の2点が大きな要因となっているようです。

- ① 既設用水路の活用とパッケージ化された発電所の設置
- ② 地元住民主体による運用体制

①では、既設の農業用水路から取水し、配管や舗装工事を必要最低限に抑えつつ、発電所については、その河川に応じた設計と工事を行うのではなく、水車や受電盤等の発電所に必要な設備が、既に一つにまとまっているコンテナ型の発電所を設置することで総工費が約5,900万円と低減されています。

②では、外部に運用を全て任せるのではなく、地区住民主体で運用することで、人件費を抑えています。以上により借入金返済等の支出を差し引いても年間で約200万円ものお金が地区に入っている状況です。

(2) 松隈地区の全40世帯が出資して発電会社を設立!

なんと住民全世帯の出資によって『松隈地域づくり株式会社』を設立しており、当事業を運用しています。出資は、1株1,000円を農家が5株、その他の世帯が4株といった形式で負担は大きくないですが、出資者へ配当はありません。その代わりに当事業により生まれた約200万円は地区のために活用されており、この活用方法の協議に住民全員が参加できる仕組みにしています。



写真:佐賀県吉野ヶ里町『松隈小水力発電所』

3. 三島町で同じような発電所の建設は可能か!?

結論から言うと可能性はあると考えています。ただし、これにはいくつかの条件や懸念事項があって、簡単なことではないと思います。まず、有力地点に対して、この発電所(コンテナ)の導入可否の調査を改めて実施する必要があります。調査には、数百万円の費用を要しますし、結果的に導入できない場合もあります。昨今の物価上昇による資材の高騰も気になるところで、その点のリスクを踏まえて調査実施を検討しなければなりません。また、地元住民が主体となった運用ができるかどうか大きなポイントに思います。さらには、雪国ならではの冬季の運用問題、発電所建設の資金調達等・・・

いろいろ課題も見え隠れしますが、筆者としては、まずは可能性のある有力地点の情報を集めたいと思いますので、そのような地点があればお声掛けいただけると幸いです。

【 地域おこし協力隊 やまもとたかはる 山本敬晴 】



環境研も参加したゼロカーボンのイベント

三島町のみなさまこんにちは。今回は国立環境研究所福島拠点が行っている情報発信の一環として、これまで参加してきた、県内で一般向けに開催されたゼロカーボンに関するイベントについてご紹介いたします。

〇ゼロカーボンフェスティバル in おおくま

こちらは昨年冬に大熊町（2023年6月にゼロカーボンに関する連携協定を環境研と締結）で行われたイベント。大熊町ではゼロカーボンを復興の軸としたまちづくりを進めており、町内外の方にゼロカーボンを身近に感じてもらう目的で開催されました。ステージには福島拠点の研究者も登壇し、他のゲストの方と「ゼロカーボンシティ構想」についてトークを繰り広げたり、大熊町長と町民の方々とで食品ロスの削減やごみ減量について話し合われたり、まさにゼロカーボンを身近に実感できるような、参加者と一体になって作り上げられたイベントでした。今年は10月28日④に開催予定でして、昨年に引き続き環境研も出展予定です。



大熊町での様子。ゼロカーボンを題材にした漫画等も展示した

〇ふくしまゼロカーボン DAY !

福島県では、10月を「カーボンニュートラル推進月間」として、民間や自治体等と連携して情報発信を行うイベント「ふくしまゼロカーボン DAY ! 2023」を開催予定です。昨年は郡山市のみで行われていましたが、今年は郡山市のほか、福島市、白河市、会津若松市、いわき市の4ヶ所でも開催する

ことが決定しています。ゼロカーボン DAY ! は子どもから大人まで楽しめるイベントになっており、例えば子ども向けの水素カーブの試乗会などを通じて、楽しくゼロカーボンについての知識を学ぶことができるようになっていました。環境研のブースでは3Dふくしまの全国版「3Dにつぼん」も登場し、多くの人達に足を運んでいただきました。今年も10月14日④の郡山会場に環境研はブース展示する予定です。ちなみに会津若松での開催は10月15日⑤となっていますので、お近くにお越しの際にはぜひ遊びにきてください。

ふくしまゼロカーボン DAY ! 2023 特設サイト
「https://www.fct.co.jp/event_pr/20231014/」



ゼロカーボン DAY ! で3Dふくしまの説明をする研究者

イベントへの出展は研究の成果を直接みなさまにお伝えできるととても良い機会です。実際に展示物等を使って研究者と会話することで生まれる発見などもあり、これからも環境に関するイベント等に積極的に参加していきたいと思いますので、どこかで研究所のブースを見かけた際にはお声がけください！

<筆者コメント(常盤達彦)>

これまで厳しかった残暑が嘘のように一気に気温が下がりましたね。寒暖差で体調を崩しやすい季節かと思えます。自分も先日キャンプに行った際、暑いと思って夏服で行ったら想像以上に寒くて風邪を引くかと思いました…。

④国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

宮下病院からのお知らせ

リハビリ室からのお知らせ

宮下病院 リハビリ室 柳田

これまでリハビリ部門は2名体制で対応してまいりましたが、現在1名で対応しています。通院でのリハビリは金曜日以外で予約制としておりますので、ご理解をお願いします。

私が着任して以来、他院からリハビリ目的の転院も徐々に増え、さらに、会津若松方面へのリハビリ通院が大変との理由により、当院でのリハビリ受診へ変更する方も増えてきました。地域ニーズに応えられるようリハビリ部門としても努力してまいりますので、今後ともよろしくをお願いします。

☎ 福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321

ポリテクセンターからのお知らせ

「12月開講の職業訓練の案内

【コース】 建築 CAD リノベーション技術コース

【訓練期間】 令和5年12月27日から令和6年6月28日まで（6か月間）
13:30～16:00

【対象者】 公共職業安定所に求職登録されている方で、職業訓練の受講が望ましいと判断された方

【募集期間】 11月9日(木)～12月6日(水)

【選考日】 12月8日(金)

【申込方法】 最寄りのハローワーク窓口へ相談のうえ、「受講申込書」（写真（縦40mm×30mm）1枚貼付）を希望される訓練コースの応募期日までにハローワークへ提出してください。

☎ ポリテクセンター会津 訓練課 ☎ 0242-(26)-0520

訂正のお知らせとお詫び

広報みしま9月号の記載内容に誤りがございました。お詫び申し上げますとともに、次の通り訂正いたします。

【訂正箇所】 広報みしま9月号（4P） まちの話題

●令和5年度春の叙勲式

五十嵐敏さんに「旭日単光章」文中

(誤) 平成8年からは副議長として3期、平成12年から議長として2期務められ

(正) 平成8年からは副議長として1期、平成12年から議長として1期務められ

☎ 地域政策課 地域政策係 ☎ (48) 5533

会津坂下警察署からのお知らせ

「電子マネーを買って
番号を教える」
は詐欺です!

昨今、詐欺の手口として、

○サポート詐欺

パソコンやスマートフォンを使用中、ウイルスの警告画面が表示され、表示された連絡先に電話すると、電話に出たオペレータから「ウイルスを除去する費用」として電子マネーを要求されるもの

○サイト利用料・携帯料金名目詐欺

電話やSMS（ショートメッセージ）などで「サイトの未納料金がある。携帯電話料金が未納だ。支払わなければ裁判になる。」などと言われ、電子マネーでの支払を要求されるものが増加傾向であり、コンビニ等で購入できる電子マネーカード（iTunesカードやアマゾンギフト券等）でお金を要求されることが増えています。

「被害防止のポイント」

- ① 事業所が各種支払を電子マネーで請求することはありません。
- ② 電子マネーカードの裏面の番号は、人に教えてはいけません。
- ③ 「コンビニで電子マネーを買ってきて」と言われたら詐欺を疑いましょう。

警察署からの最新情報!
「POLICE メールふくしま」

「POLICE メールふくしま」では、このような情報を発信しています。

★ 会津坂下警察署管内の交通取締り実施予定
→ 実施日時、実施場所、取締り内容など

★ なりすまし詐欺の発生情報

→ 発生した詐欺の手口、内容、注意事項など

★ 不審者情報

→ 発生日時、発生場所、不審者の外見の特徴など
この他にも、福島県警察官の募集情報、熊の出没情報、警察署の各種キャンペーン情報などを発信しています。ぜひ活用してください!

登録はこちらの
QRコードから→



☎ 会津坂下警察署警務係 ☎ 0242 (83) 3451

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ三島通信で健康教室を放送中です。

10月のテーマは「災害時に備えた食品の家庭備蓄」です。

ぜひご覧ください。

☎ 福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321



町からのお知らせ

ご寄附ありがとうございました(8月分)

ふるさと納税

佐藤 とみ子 様 (会津若松市)

井上 和 亮 様 (東京都)

寄附件数 18 件 計 244,000 円

10月分納税のご案内

【納期限 10月31日(火)】

▼ 町県民税 (普通徴収) (第3期)

▼ 後期高齢者保険料 (普通徴収) (第3期)

忘れずに納付してください。

☎ 町民課 町民係 ☎ (48) 5555



はじめまして赤ちゃん

西 花 奈 さん (宮下)
(父：恭平さん・母：菜美さん)



お悔み申し上げます

佐藤 市 雄 様 (97才・西方)
佐藤 公 子 様 (87才・西方)
菅 家 藤 男 様 (90才・高清水)
渡 部 貴 博 様 (47才・荒屋敷)
二 瓶 昌 興 様 (87才・大谷)

町の人口と世帯 (9月1日現在)

人口	1,382	増減数	-2	出生	1
男	701		1	死亡	4
女	681		-3	転入	1
世帯	688		-1	転出	0

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

ひまわりサロン
川井友愛サロン

10月11日(水)
社会見学

滝谷和楽塾

10月17日(火)
社会見学

高清水・小山いきいきサロン
大登サロン
サロンないり

10月18日(水)
社会見学

間方いきいきクラブ
浅岐あったかサロン

10月20日(金)
社会見学

サロンなごみ

10月23日(月)
社会見学

西方ほがらかサロン

10月25日(水)
午前10時から
森の校舎カタクリ

桧原はつらつクラブ

10月25日(水)
社会見学

大石田友遊サロン

11月6日(月)
午前10時から
大石田集会所

桧原はつらつクラブ

11月7日(火)
午前10時から
桧原集会所

浅岐あったかサロン

11月10日(金)
午前10時から
浅岐集会所



町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

栗田 精 一 様 (西方)
菅 家 章 一 様 (高清水)
渡 部 政 司 様 (荒屋敷)
佐 藤 新 太 郎 様 (西方)
二 瓶 正 和 様 (大谷)

◆ 心配ごと相談 ◆

10月26日(木) 福祉センター
午前9時から午前11時30分まで

☎ 社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

全国各地の「日本で最も美しい村」が集い、農山漁村の伝統芸能の披露や特産品が集まるマルシェ、生活&仕事体験ブースなど、都市ではなかなか体験することのできないワクワクや美味しいが詰まったイベントが都内で開催されます。

三島町も「日本で最も美しい村マルシェ」に出展し、町ならではの特産品や伝統工芸品をお持ちします！ぜひお友達やご家族などお誘いあわせのうえご来場ください。

日本で最も美しい

村まつり

in Tokyo Torch

2023.
10.29 (Sun)
10:30~16:00
入場料無料

【会場】 トウキョウ トーチ パーク
TOKYO TORCH Park

東京都千代田区大手町2丁目6-4



参加加盟町村【21 町村地域団体】

北海道	鶴居村	栃木県	那珂川町小砂	長野県	木曾町
青森県	佐井村	山梨県	早川町	京都府	和束町
山形県	田子町	静岡県	松崎町	鳥取県	智頭町
	大蔵村		川根本町	徳島県	上勝町
福島県	三島町		中川村	香川県	まんのう町
	飯舘村	長野県	大鹿村	宮崎県	椎葉村
	昭和村		原村		学生サポーター

詳しくはこちらをご覧ください

⇒ 特設サイト QR コード



【主催】NPO 法人「日本でも最も美しい村」連合

町長日記

風と土が織りなす三島の風土を創る

No.04

10月1日に只見線が再開通して1周年になります。川口駅と只見駅の区間は、「上下分離方式」により運行されておりますが、課題も多く、観光路線としては一定の収入を得ることができず、生活路線としての鉄道利用は減少傾向にあるといっても過言ではありません。

交流が基本となります。交流人口や関係人口の拡大を通し、異文化の人的交流を促進する時代となりました。学校教育は非常に大切で、また町民の皆様が地域に対する情熱が必要ではないかと考えます。

風（地域外の人）と土（我々住民）が交わるところに新しい三島の文化が醸成されます。限界集落や少子高齢社会、人口減少地域と会議があるたびに嘆くのでなく、どの様な地域社会を創って行くのかを問う必要があります。町は、紙おむつの支給・単身用住宅の建設、保育料の無料化・給食の無料化など実施し、町民の皆さんのご協力のもと地域にお金が落ちる仕組みも考えました。

休日道の駅尾瀬街道みしま宿は、大型観光バス等や台湾を中心とした外国人が訪れ、三島町を代表する観光地となっています。今後の大きな課題は、文化観光地として日本を代表した地域の先立ちとして、ふるさと運動や地区プライド運動、生活工芸運動、有機農業運動、健康づくり運動等を核とした「文化観光」をどのようにリンクさせていくべきか考える必要があります。

まずは、地域社会のコミュニケーションの構築から取り組まなければならないと考えています。

三島町長 矢澤 源成